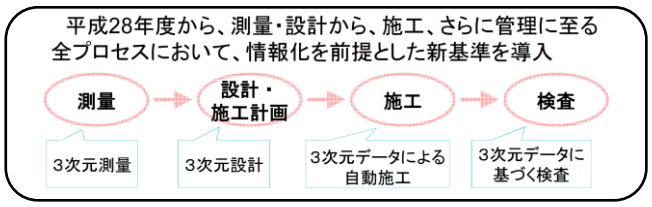
なんでもインフォ 2016.4

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１－23
E-mail　suzuki@showacd.co.jp
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～ 国土交通省が推進する『i-Construction』について ～

はじめに

国土交通省は、本年度から建設現場の生産性向上に向け、測量・設計、施工、検査に至る全プロセスにおいて、情報化を前提とした新基準「i-Construction」を導入すると表明しました。



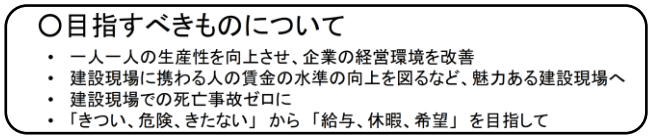
資料：国土交通省

そこで、今月号では「i-Construction」についてお話します。

「i-Construction」が目指すもの

人口減少下にある現在、安全・安心の確保を前提に生産性を向上させ、経済成長を実現しなければならない状況にあります。

「i-Construction」は、技能労働者一人あたりの生産性を将来的に５割向上(全工種平均)を目指して導入されるものです。

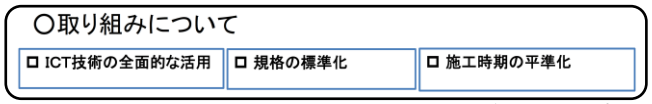


資料：国土交通省

取り組みについて

具体的な取り組みについては、次の３つが挙げられています。

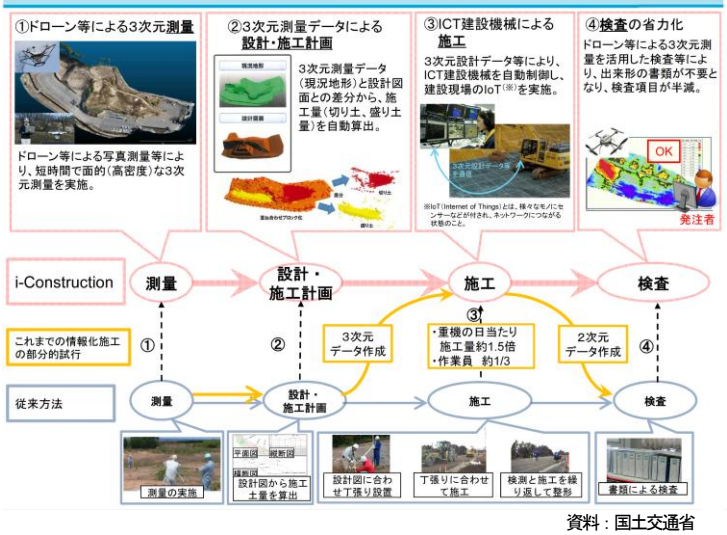
まだ課題もあるようですが、ICT ツールや３次元データを駆使した CIM の活用による効率化が期待されます。



資料：国土交通省

■ ICT 技術の全面的な活用（土工）

「i-Construction」では、まずはここ数十年間、生産性があまり改善されていない「土工」を対象に、生産性向上を目指しています。



資料：国土交通省

■ 規格の標準化（コンクリート工）

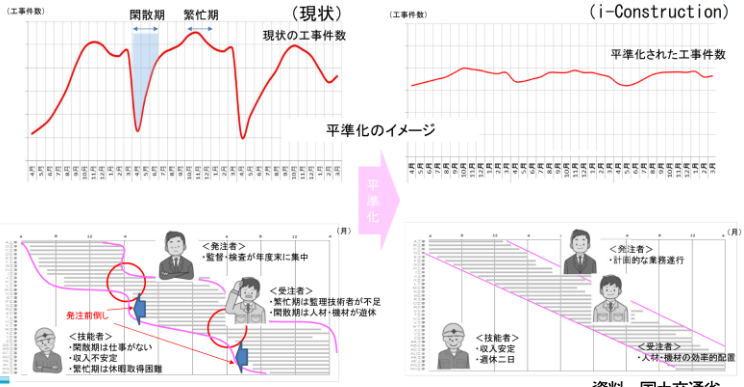
「i-Construction」では、鉄筋のプレハブ化や型枠のプレキャスト化、各部材の規格の標準化を導入することで、省力化や工期短縮（施工）を目指しています。



資料：国土交通省

■ 施工時期の平準化

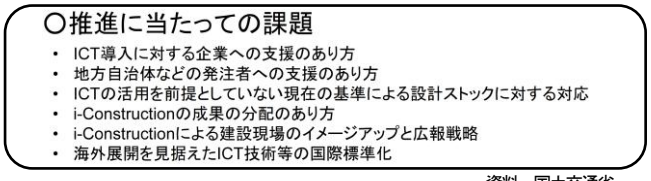
「i-Construction」では、２カ年国債の活用等により、４～６月の閑散期や年度末の繁忙期を解消し、資機材・人材の効率的な活用を図るとともに、労働環境の改善を図ることを目指しています。



資料：国土交通省

推進に当たっての課題

「i-Construction」を推進するにあたっては、「ICT に対応した基準類の未整備」や「ICT 建機の普及が不十分」等の課題もあるようです。主な課題としては、次のようなものが挙げられています。



資料：国土交通省

おわりに

情報化・生産効率の向上に向けた「i-Construction」や CIM 導入は、今後、国土交通省直轄事業を中心に進められるものと思われますが、地方自治体管轄の事業や災害現場においても一般的に導入される日は、近いかもしれません。

（※作成にあたり、国土交通省「技術調査 Web ページ」の「i-Construction 委員会」配布資料を参考にさせて頂きました。）

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路、河川・砂防、橋梁等の計画・設計、CIM, i-Construction に対応した３次元空間計測及び設計を行っております。

”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください。

配布者

作成者：コンサルタント事業部